

■H30. 7. 5 市長定例記者会見内容

日時 平成 30 年 7 月 5 日（木）午後 2 時 30 分～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、
酒田記者クラブ 8 社（山形新聞、荘内日報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、
河北新報、NHK、SAY）
コミュニティ新聞社（記者クラブの承認による）

■内容

1. 記者発表事項

① 保育のお仕事まるわかりフェア—就職・進学応援します—について

市長／8月11日（祝・土）、ホテルリッチ&ガーデン酒田において、本市で働く保育士等の人材を確保するために、市内民間立の子育て関係施設や保育士養成校などの協力を得て、本市では初めてとなる「保育のお仕事まるわかりフェア—就職・進学応援します—」を開催する。

本市では、共働き世帯の増加などにより低年齢児童の保育所等への入所が増加し、それに伴う保育士等の確保が課題となっている。当フェアを開催することで、保育士や保育教諭として働きたいと思う高校生を増やすとともに、保育士養成校の学生などが、本市の保育園等に就職するきっかけになることを期待している。

当日は、市内の民間立保育施設など11園と市立保育施設など7園が参加予定。
記者／市内の待機児童の状況は。

市長／現在はいない。ただしいつ発生してもおかしくない状況だとは思っている。

記者／第一希望の園に入れず、第二、第三希望で決まった園が通園に時間がかかるなどする例もある。待機児童はいないかもしれないが利用者目線からみて子育てしやすいといえるか。

市長／難しい。一方の園は埋まっている、一方は空いている保育園ごとにばらつきがある。現状の統計が保育園ごとに判断するような統計ではない。

記者／待機児童以外に子育てしやすい環境か測れる指標が必要ではないか。

市長／いろいろな要素はあるが、保育士がいないという状況はそれぞれの保育園で抱えている。今回はその観点から企画した。

記者／現在の申し込み人数は。

市長／当日参加可能。事前申し込みの受付はしていないため現在の申し込み人数は不明。高校生のみ7月中にわかる。

記者／潜在保育士とは

市長／資格は持っているが現在働いていない方。

② 日本遺産「北前船寄港地 酒田」2018みなとオアシスマつり

～河村瑞賢生誕400年 酒田の波を感じよう!～について

市長／例年開催している「みなとオアシスマつり」だが、7月29日(日)例年の開催場所である酒田港本港地区において開催。今年は日本遺産認定ということもあり、また北前船の西廻り航路を開拓した河村瑞賢生誕400年を記念し、北前船をテーマに生誕地である三重県南伊勢町を迎えて盛大に開催する。

今年は特に、南伊勢町と本市の特産品を用いたコラボ料理やコラボジュースの振舞いや、南伊勢町のゆるキャラと本市のゆるキャラのカワイイ対決も行う。

新たに酒田出身のプロスケートボーダー村井海斗(むらいかいと)さんを招いて「スケートボードずいけんCUP大会」も行う。

例年行っているイベントに加えて、盛りだくさんのイベントを用意する。ぜひ多くの皆さんからおいでいただき盛り上げていただきたい。

2. 懇談

◎幹事社による代表質問(事前通告)／

【幹事社質問1】ダイヤモンドプリンセスの寄港・受け入れを終えての感想

市長／中心市街地に多くの方が訪れてくれた印象。高校生を含め多くの市民が欧米の方々と触れ合えて刺激になったと思う。一方、岸壁でのにぎやかさは去年のコスタネオロマンチカのほうが賑やかだった印象。吉村県知事からは、朝早かったため市街地の店が開いていなかったと言われた。早朝に下船し市街地に来ることは想定外。乗船者のスケジュールを把握することが必要。17日に再度来るので商店街などへ周知したい。地域創生部長／予想よりたくさんの方が市街地に来てくれ、お店に立ち寄り買い物してくれたのは驚きとともに感動した。下船客に渡した折り紙付きのメッセージは外国の方から感謝の言葉をいただいた。日本人の乗客からもメールなどで反応があった。高校生・おもてなし隊の大学生の対応はとても良かったし助かった。いい経験になったと思う。続けていきたい。夏休み期間は中学生にも入ってもらいたいと考えている。観光自転車も人気で対応が追い付かなかったところがあった。あちらこちらから売り上げも通常の倍という声もあった。17日は今回の指摘を生かし対応したい。

記者／中町モールからのシャトルバスの待ち列が長かったが対応は考えているか。

地域創生部長／バスの本数など含め船社側とも協議しなければいけない。

記者／シャトルバスは無料か。

地域創生部長／有料。

記者／青森などは駅から近く歩いていけるが、酒田はそうではない。

地域創生部長／オプションツアーも含め、バスは船社が用意している。今後も外国クルーズの場合はそうなる。国内クルーズの場合はどんどんやってくれと船社で言ってい

るので市で用意することもある。

記者／船首の方に人が来なかった。午後からは大獅子も船首付近にあったが、市民が暑いせいもあり来ない。誘導が必要ではないか。もったいない。

地域創生部長／乗客・クルー約 4,000 人のうち 2,750 人、ほぼ 7 割の方が降りて街に出た。船を見に来たお客さんからもイベントが見えないという声もあったが、本来イベントは船に向かって行っている。

記者／船首側からお客さんを誘導することはできないか。

地域創生部長／誘導も構造上、船主側にあまり車両などを入れたくないため厳しい。

記者／市内に出た 2,750 人の数字の根拠は。

地域創生部長／オプションツアー人数、タクシー、シャトルバスのチケットの人数。

記者／ほかの観光地への効果は、普段の何割り増しかなど

地域創生部長／そこまではカウントしていない。

記者／来年は平日だが、学生が 1 日活動するのも限界がある。代替りのガイドなど考えているか。

地域創生部長／授業の一環として派遣可能という高校もある。協力を仰ぎたい。不足部分はこれから詰めたい。

記者／今回英語圏の方が多かったが中国圏など英語以外の言語の対応は。

地域創生部長／殆ど英語で通じた。それ以外の言葉で苦労したとは聞いていない。岸壁では英語・中国語で対応した。

記者／今後、商店街で来客人数やどのようなものが売れたかなど調査するか。

地域創生部長／人数・売上げの調査は考えていない。商店でも対応だけでも手一杯だった。正確なところでは難しい。経済効果として、国交省の経済効果に用いる指標は、クルーズでは 1 人 2 万円。それを掛けると 5,500 万くらいの効果になったであろう。次回までは期間が無いので、まずは先ほど出た対応について改善し、あとはやりながら精査したい。

【幹事社質問 2】 駅前再開発工事着工の遅れについて、事実関係を確認したい。遅れによる負担など

市長／積算の結果を見ないとわからないが、面積が増えているので事業費を再度積算しなければいけない。試掘調査の結果、建築設計の構造に変化があった。面積が増えているので事業費増になるのは間違いない。ライブラリーセンター部分 400 平米弱、ホテルが 7 階から 8 階になり 840 平米程度増えている。事業費がどの程度増えるかは精査していかなければならない。なるべく早く着工できるように、また予定の 33 年度中にオープンできるようにしたい。面積が増えるので事業費が一定程度増えるのはやむをえないと思っている。ただし工期の遅れは最小限にとどめられれば。

記者／おおよそ事業費はどの位増え、着工時期はどの位の遅れになるのか。

市長／全体事業費として102億から107億。5億円増見込み。

企画部長／どの時点から着工できるかは設計が上がってこないと、そのままスタートできるかということもあるので今日この場では控えさせて頂く。今月中には方向性をお知らせしたい。

記者／労務費・資材もあがるか、その見通しの理由。

市長／オリンピックもあり建設需要で全体的にあがっている。

記者／5億のうち、面積による負担増と資材・労務の増の割合はわかるか

企画部長／わからない。資材の単価は3月時点で前年3月に比べ、鉄筋29%値上がり、鉄骨14%値上がりとなっている。事業者サイドで再度単価については見直ししている。

記者／ここから更にあがるか

企画部長／いろんな専門誌でも右肩上がりと言っている。今回鉄骨工事が多いので、まとまった量の鉄骨が納入できるかどうか大きいポイントになっている。あくまでも発注時点での単価での入札。将来上がるリスクを事業者側に負担させることはない。

記者／業者のいいなりではどうかと思う。

企画部長／民間事業者がそれで発注できるかをチェックしている。チェックしたものを購入者側として我々もチェックする。

市長／過去何回もとん挫。市が主導しながらやってきた。所管部局でこれまでもこれからもチェックしていきたい。

記者／総事業費107億のうち酒田市負担は。

企画部長／当初権利として土地を持っていたので30億、現金で27億負担。そのほかに全体として40億強（国・県・市）補助金。市では17億程度か。これは国からの補助金が満額付いた場合。国からの補助金は申請し交付決定が来ないとはいっきりしない。

床についても設計書が上がっていないので決定はしていない。最終的に入札なのでどこまで下がるか。

【幹事社質問3】IWCを受賞した初孫の酒がイタリアに輸出開始されたことを受けての感想と展望

市長／日本酒の海外輸出に関しては県としては今にはじまったことではない。酒田の酒としては限定的になる。一昨年、土門拳のローマの時に酒と米を持参した。その後一緒にローマに行ったメーカーの酒が売れたり、輸入を扱っている商社が喫茶ケルンの取材に来たり、少しずつ酒田の酒を売ることに繋がってきている、やってみるものだった。酒田の酒に波及することを期待。去年1年で海外へ出荷された酒田の酒の量を今年6月で突破している。ぜひ山形県の酒3つのうち1つがチャンピオンになれば。酒田の酒であれば爆発的に売れるきっかけになるのでは。

市が持っている交流ネットワーク（サンクトペテルブルク・ポーランド・大連・デラウェアなど）との交流の際に売り込むことが必要。具体的な売り込み方を模索している。

記者／観光客・市民向けにIWC関連のイベントは予定していないか

市長／試飲をするようなイベントを考えている。10/20にもイベントを予定。お酒を使った祭り、イベントもやっていきたい。地元業者・酒販組合と連携をとりながら行いたい。

記者／10/20のイベントはどこで

市長／中町の大屋根の下

記者／前回どのお酒を注がれたかわからなかったという声も

市長／「新潟酒の陣」の首からお猪口を下げて自分の飲みたい所をまわるのはうまいと思ったが、酒田では難しい。協議会と相談してみる。

◎フリー質問

【中高一貫校】

記者／廣瀬県教育長が中高一貫校に関して当初予定通りの開校を目指すと言っていた。今後の対応は。

市長／我々の考えは伝えてある。重要事業要望でも丁寧な説明を求めているが、返答は一切来ていない。

記者／話す予定は。

市長／公式な要望書など文書での要請は考えていない。非公式には考えは伝え説明を求めている。誠実に地元の声を吸い上げてもらいたい。